

放射性セシウムのイネへの移行（第2報）

根本圭介

東京大学大学院農学生命科学研究科・栽培学研究室・教授

作物生産・土壌グループでは、現地圃場における栽培試験（福島県農業総合センターとの共同研究）、大学における室内実験、農家圃場でのサンプリングなどを通じて、①土壌からのイネへの放射性セシウムの移行と体内分布、②イネへの放射性セシウムの移行と土壌の物理化学性との関係、③イネにおける放射性セシウム吸収の品種間差違、④イネの放射性セシウム吸収に対するカリウムの施用の効果、⑤水田生態系における放射性セシウムの循環・収支等の課題に取り組んでいる。今回はセシウム吸収の品種や土壌による違い、セシウムの体内分布などについて中間報告を行ったが、今回はその後の研究経過と明らかになった主要な知見を紹介したい。

研究従事者：農学生命科学研究科・栽培学研究室、同・放射性同位元素施設、同・農地環境工学研究室、福島県農業総合センター。



写真 農家圃場におけるイネのサンプリング。福島市大波地区や伊達市下小国地区でのコメの放射性セシウムの規制値越えに伴い、これらの地区を対象にサンプリング調査を行った。目下、刈り株に含まれるセシウムを測定することにより、田圃ごとのセシウム吸収の大小を評価することを試みている。